

ソニーにおける技術情報交換プロセスへのロゼッタネット標準の導入

現在ソニーでは、設計開発プロセスでの技術情報交換にロゼッタネット標準の導入を計画している。また、パートナー企業からも技術情報交換の電子化・自動化への関心が非常に高くなってきている。

パートナー企業との間で交換される技術情報として、開発部品の案内、納入部品の仕様書、CAD情報などがあげられ、特に最近では環境情報の収集の電子化・自動化が大きな話題となっている。

ソニーのロゼッタネット標準を介した技術情報交換への歩みは掲載図の通りである。

即ち2002年度に新製品情報の情報提供に関する「Design Engineering Information Propose (DEIP、ロゼッタネットマイルストーンプログラム)」に代表企業として「日本から初めてのPIP2A10の開発」に参加し、03年にはPIP2A10を利用したシステム構築と新製品情報について、サプライヤー14社とテスト運用を行った。

03年11月13日恵比寿ガーデンホール（東京都目黒区）で行われた“ソニー・ロゼッタネットフェスタ”パートナー数社と環境情報・部品情報の接続実験を行った。

ロゼッタネット標準でのメリットは、XMLで記述されたデータをMachine-To-Machineで、人手を介さず、自社のデータベースへの取り込みが可能であり、また、他のXMLデータベースに簡単に接続利用ができ、

容易に効率的なデータベースの構築ができる点である。

実際のPIP2A10などによる技術情報の交換には、環境などの法規制に対応した、また、各部品群ごとの業界で統一された辞書及び相手と交換する情報内容（何を送るか）を取り決めたIDA (Information Distribution Agreement) が必要となる。

そのためにロゼッタネットジャパンの会員数社と04年4月よりロゼッタネットグローバルのマイルストーンプログラムとしてロゼッタネット標準を介した設計情報交換を行うEngineering Information Management (EIM) を立上げた。

これに関連してロゼッタネットジャパンにEIM WG、環境SWG、部品テンプレートSWG及びIDASWGが設置され04年末の実装を目標に精力的な活動が行われている。

特に環境情報交換は、06年のEC指令に適合させるために、環境汚染物質の含有量を原材料メーカーから、加工メーカー、部品組立メーカー経由で一貫して伝達されてくる必要があり、その際、ロゼッタネット標準のようなXML形式で機械的に自動交換されることが望ましく、最優先で実装していくことが急務である。

また、全メーカーを網羅した体制・仕組みを構築していくためには、中小メーカーも利用できる安価なロゼッタネット標準による情報伝達の仕組みの出現が望まれる。

ソニーの技術情報交換プロセスへのRN標準の導入

	2002年	2003年	2004年
RN Global Milestone Program参加	RNJ・DEIP (PIP2A10開発)	Material Composition (環境情報取得) (PIP2A10修正)	技術情報のマイルストーン Program (EIM) 立上げ
社内プロジェクト発足	新部品情報	納入仕様書 標準部品 環境情報	新全社技術情報プロジェクト発足
システム開発運用	システム開発 (バックエンド含む)	テスト (TP14社)	修正PIP対応 4月本格開発スタート
RNJ・JEITA 関連活動		環境情報SWG 納入仕様書WG JGGPSSI 環境辞書発行	EIM WG 環境情報SWG 部品テンプレートSWG IDASWG